

SPORTS LEGACY Report 2025

東京マラソン財団「スポーツレガシー事業」のご報告



Inclusion & Innovation

未来に遺すスポーツを、今つくる。

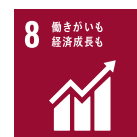
スポーツを起点として、21世紀の社会に、後世につながる「レガシー」を遺していきたい。
そんな思いから「スポーツレガシー事業」は始まりました。

人と人とがつながれることのかけがえのなさを誰もが実感している今、
スポーツが持つ力に対する期待や関心はこれまで以上に高まっています。

東京マラソン財団は、この事業を通して、すべての人がスポーツを軸とした
新しいライフスタイルを享受できる社会の実現と継承を目指します。

スポーツレガシー事業 公式ウェブサイト ▶ <https://www.sportslegacy.jp>

「スポーツレガシー事業」は、国連で採択された
SDGs (持続可能な開発目標) の
実現に取り組んでいます。



ご支援ありがとうございます。
2025年度の「スポーツレガシー事業」の活動予定についてご報告します。

東京レガシーハーフマラソン2024チャリティおよび
東京マラソン2025チャリティにてスポーツレガシー事業へ
ご賛同いただいたみなさまからお預かりした
寄付金は **564件、97,355,001円** でした。
多大なるご支援、誠にありがとうございます。

お預かりした寄付金を分配・活用し、2025年度は下記プロジェクトを実施いたします。

2025年度実施予定プロジェクトについて



●ダイヤモンドアスリートプログラム
(公益財団法人日本陸上競技連盟)



●グリーンマイルエッジプログラム



- 障害者スポーツ普及事業
(公益社団法人東京都障害者スポーツ協会)
- パラ陸上チャレンジサポート(江戸川区)
- ランニングに関する研究・普及(ランニング学会)
- アスリートの健康問題解決
(公益財団法人日本陸上協連盟、女性アスリート支援委員会)
- ミニ東京マラソン
- 第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025
(公益財団法人東京都スポーツ文化事業団)
- 一般社団法人日本実業団陸上競技連合

他、新規プロジェクト(詳細は決まり次第別途公開)にて活用させていただきます。



たまご育て
SPORTS LEGACY
プロジェクト
INCUBATION PROJECT



- 東日本大震災被災地の育英事業
- たまご育てプロジェクト
- 能登半島地震支援

令和6年能登半島地震災害被災地支援事業
(東京マラソン2025チャリティでスポーツレガシー事業-3を
ご選択された皆様からお預かりした25,399,000円は
日本赤十字社を通じ、送金済となります。)



スポーツの
夢

強化育成

アスリートの強化、ジュニアアスリート育成、キャリア支援

ダイヤモンドアスリート(第11期) 4名 認定

第11期ダイヤモンドアスリート



4名

ダイヤモンドアスリートNextage



3名

写真：日本陸連／フォート・キシモト

第11期ダイヤモンドアスリート



写真：日本陸連／フォート・キシモト

国際的な活躍を目指す次世代選手を育成する「ダイヤモンドアスリート」第11期に、新規1名・継続3名の計4名を認定しました。また、新設の「ダイヤモンドアスリートNextage」として3名が選出されました。ダイヤモンドアスリートNextageは実際のダイヤモンドアスリートプログラムの一部を経験し、ダイヤモンドアスリートになるための準備をすすめます。認定された選手たちの今後の活躍に是非ご期待ください。

第11期ダイヤモンドアスリート

・北田 琉偉 KITADA Lui 日本体育大学(2年) 男子棒高跳
・澤田 結弥 SAWADA Yuya ルイジアナ州立大学(1年) 女子中・長距離
・永原 颯磨 NAGAHARA Soma 順天堂大学(1年) 男子3000m障害物
・中谷 魁聖 NAKATANI Kaisei 福岡第一高等学校(3年) 男子走高跳

※認定式当時の所属情報です。

第11期ダイヤモンドアスリート Nextage

・濱 椋太郎 HAMA Ryotaro 目黒日本大学高等学校(3年) 男子短距離
・古賀 ジェレミー KOGA Jeremy 東京高等学校(2年) 男子110mハードル
・ドルーリー 朱瑛里 DRURY Sherry 津山高等学校(2年) 女子中距離

ダイヤモンドアスリートとは

オリンピックや国際大会での活躍が大きい期待できる次世代の競技者を強化・育成する「ダイヤモンドアスリート」制度は、東京オリンピックを契機に中・長期的にエリートを育成することを目的として選ばれた競技者のための制度です。陸上競技を通じて競技面での成果はもちろん、豊かな人間性を持つ国際人として成長し、今後の日本および国際社会の発展に寄与できる人材の育成を目指しています。個を重視したアスリート育成のためにプログラムを整備し、アスリートの成長と競技力の向上を多面的にサポートします。また、アスリートを指導するコーチの育成も不可欠であるため、ハイパフォーマンスコーチの養成と連動したプログラムも展開しています。

リーダーシップ研修会



写真：日本陸連／フォート・キシモト

2024年12月4日(水)のリーダーシップ研修会は、ダイヤモンドアスリート修了式・認定式のあとに実施されました。緊張の面持ちから一転、笑い声が飛び交う和やかな雰囲気の中、座談会形式で進行了。選手はお題(質問)に頭を抱えながらも、自分なりの考えを発表し、海外遠征の裏話や競技特有の悩みなど、様々なエピソードから選手たちの個性や魅力をたくさん伝えることができました。

アスリートの健康問題解決のためのプログラム

【JAAFウェルビーイングセミナー】を陸上競技に関わる指導者を対象としたセミナーを2回開催し、アスリートはもちろん、アスリートを支えるすべての人が、正しく競技と向き合い、アスリートの健康を守るための知識や学びを深めていけるきっかけづくりに取り組みました。

寄付者を招待しました！

寄付者交流会



写真：日本陸連／フォート・キシモト

第11期ダイヤモンドアスリート認定選手との交流の場を設けました。「直接お話を聞くことが出来て夢のような時間を過ごす事が出来ました！」と参加者の皆さまに好評をいただきました。

日本陸連アスレティックス・アワード2024



陸上界に貢献した方々を表彰するアワードに寄付者の方をご招待。式典前にはダイヤモンドアスリート修了生の柳田大輝選手とともに写真撮影できる機会も！貴重な時間を過ごしていただきました。

第108回日本陸上競技選手権大会



2024年6月27日から30日にデンカビックスワンスタジアム(新潟)で開催された第108回日本陸上競技選手権大会に寄付者の方をご招待。競技観戦のほかにミックスゾーンで競技を終えた選手との交流を楽しんでいただきました。

スポーツの
広がり

普及啓発

スポーツ大会の支援および普及啓発

教室参加人数

約 500 名

(2024年度開催延べ人数)



■ミニ東京マラソン



『ミニ東京マラソン』は、子どもたちにランニングやスポーツへの関心を高めていただくために、東京マラソンのコンセプト「走る喜び(ランナー)、支える誇り(ボランティア&審判&スタッフ)、応援する楽しみ(応援者)」に沿って、東京マラソンを疑似体験していただく特別授業です。走ることが得意な生徒・児童がよりマラソンを好きになってもらうのはもちろん、走ること苦手意識がある子どもたちには、スポーツは、実施する人(マラソンの場合はランナー)以外にも“支える”、“応援する”等の多様な楽しみ方があることを認識してもらうことができました。

■パラ陸上チャレンジサポート

2024年10月20日の東京レガシーハーフマラソン2024と同日に開催した『第3回パラ陸上教室in国立競技場』は、障がい者が陸上競技に触れ合い、東京2020オリンピック・パラリンピック陸上競技会場(国立競技場)で行う、初心者向け陸上教室です。参加者保護者の方より、「楽しそうにレーサーに乗っているのを見て、親としてとても嬉しい。」「子どもの可能性を感じることができました。皆さんの寄付金のおかげでこうした教室が開かれるのは大変ありがたく、意義あることだと思います」と好評をいただきました。また、「EDORIKUパラ陸上教室」では昨年度に引き続き、5回の教室を実施し、多くの方にご参加いただきました。



第3回パラ陸上教室 in 国立競技場(10月20日) 『EDORIKUパラ陸上教室』(2024年度5回開催)

■公益社団法人東京都障害者スポーツ協会

2025年1月13日に「第8回日本知的障害者選手権新春水泳競技大会」の中継放送を実施し、ネット配信では1万を超える視聴数を記録するなど、多くの方に観戦していただきました。また、2025年2月8日、9日に「2025東京CUP卓球大会」を開催しました。本大会は、障害の有無や程度を問わず、卓球愛好者が大会を通して選手相互の交流と親睦を図り、障害の理解及び障害者の社会参加の促進に寄与することを目的としています。参加者数は、昨年より大幅に増加し、個人戦22人、団体戦では、19チーム、43人の増加となりました。特に、車いすEクラスでは、8チーム増加し、卓球競技の人気、東京CUPの人気を伺い知ることが出来る大会となりました。

■東京2025デフリンピック



大会開催前年度にあたる2024年度は、2023年度に策定した東京2025デフリンピック開催基本計画に基づき、施設利用調整や輸送、競技・会場等のオペレーション、管理・広報等の各種準備・調整を行いました。特に、大会の認知度向上に向けた広報活動や大会収入確保のための取り組みに注力しました。

■ランニング学会

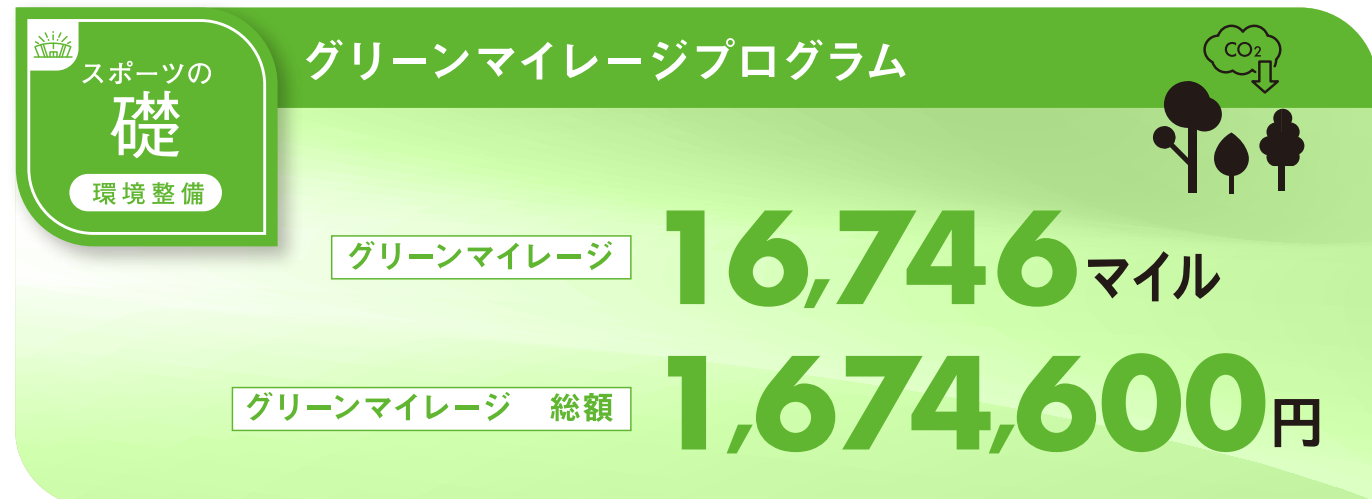
ランニング学会
Society for Running

- ・ランニング指導員養成事業の支援
- ・ランニング学研究助成事業の支援
- ・ランニングに関わるプロジェクト研究への支援
- ・安全で効果的なランニングについて一般ランナーへの普及活動への支援(東京マラソンEXPO 2025チャリティーブース)
- ・寄付者向けプログラムへの支援

■一般社団法人女性アスリート健康支援委員会



- ・産婦人科医向け講習会の開催
- ・講習会受講医師の全国検索ページの公開
- ・女性特有の問題に対する認知度の向上、女性アスリート及び関係者に対する知識の普及、啓発活動のためのイベントの出席
- ・各種講演会への講師の全国派遣



■3大会で実施！

ランニングを楽しむ場を守るためにも、走ることで自然を守る運動ができないか？ そんな想いから、グリーンマイレージプログラムは生まれました。1マイル(約1.6km)を走るごとに100円が緑の保全活動などに寄付されます。

・TOKYO ROKUTAI FES

開催日：2024年9月28日・29日
マイレージ数：11,153マイル
寄付金額：1,115,300 円

・第41回守谷ハーフマラソン内1マイルレース

開催日：2025年2月2日
マイレージ数：433マイル
寄付金額：43,300円

・TOKYOナイトリレー&1マイル in 国立競技場

開催日：2024年10月18日
マイレージ数：5,160マイル
寄付金額：516,000円



■東日本大震災被災地の育英事業（岩手県・宮城県・福島県）

困難に直面している被災地の若者や子どもたちが勇気・希望、そして夢を与える力を持つサポートするため、東京マラソン2024チャリティスポーツレガシー事業・2、東日本大震災被災地の育英事業に集まった寄付金6,699,057円を、いわての学び希望基金、東日本大震災みやぎこども育英募金、東日本大震災ふくしまこども寄附金に分配・送金しました。

■たまご育てプロジェクト

スポーツレガシー事業の新しい取り組みである「たまご育てプロジェクト」について、2024年度はトライアル期間として助成を行いました。また2025年度の公募に向け、ウェブページの作成及び広報、また助成先決定のため、第三者を含めた審査会を実施しました。

■令和6年能登半島地震災害義援金

東京マラソン2025チャリティでスポーツレガシー事業・3、令和6年能登半島地震災害被災地支援事業へ集まった寄付金を2024年1月1日に発生した令和6年度能登半島地震の災害義援金として、日本赤十字社を通じて被災地の義援金配分委員会に送金しました。スポーツレガシー事業・3のチャリティランナーのアスリートビブスには「#能登のために」と追記し、ランナーの皆さまに着用いただきました。

2025年度も東京レガシーハーフマラソン2025チャリティ、
東京マラソン2026チャリティを通した
寄付金及びチャリティランナー募集をはじめ、
様々な形でスポーツレガシー事業を支援することができます。

今後とも、スポーツレガシー事業のご支援・ご協力を
賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

詳しくは下記ウェブサイトをご確認ください。

<https://www.sportslegacy.jp/tokyo-marathon-charity>

スポーツレガシー事業運営委員会からのご挨拶



東京マラソン財団理事長

早野 忠昭 Tadaaki Hayano

東京マラソン財団チャリティで集まった人々の想いを基盤としながら、
「みんなの手で創り出し、つないでいくレガシー」というコンセプトを掲げ、
「スポーツが後世に遺すもの」つまりスポーツの「レガシー」の創造と継承を
東京マラソン財団のミッションとして取り組んでいきます。

東京マラソンらしく、革新的でありながら誰もが参加できるよう、
“Innovation & Inclusion”を掲げ、新たな広がりを目指していきたいと思います。
私たちのライフスタイルが豊かで幸せなものになったと実感できるように、
ぜひスポーツレガシー事業を応援してください。

寄付のお申込みは、公式ウェブサイトで受け付けています！

スポーツレガシー事業公式ウェブサイトを通じて、
クレジットカードによる寄付を受け付けています。ご支援よろしくお願いいたします。



詳しくは
こちらから



寄付や事業についての詳細・お問い合わせはこちらから



● スポーツレガシー事業公式ウェブサイト
<https://www.sportslegacy.jp>



CHARITY
TOKYO MARATHON

発行：一般財団法人東京マラソン財団
2025年7月
<https://tokyo42195.org/>

